

学びサポート企画部

徳島大学 工学部 2年 片山 裕之 徳島大学 総合科学部 1年 下村 宗央
 徳島大学 総合科学部 3年 枝川 恵理 徳島大学 総合科学部 1年 畑中 唯菜

はじめに...

大学教育において、近年は学生の主体的な学習を促進することが強く叫ばれており、学習環境の整備も課題の1つとして挙げられる。このような背景のもと、附属図書館に学生の自学スペースやグループ学習を行うラーニング・コモンズを整備する大学が増加している。徳島大学でも2012年にラーニング・コモンズを設置した。

本発表では、徳島大学で学習支援活動を行う学びサポート企画部がこれまでにやってきた取り組みの概要を説明するとともに、本活動の特色とも言える学生と教員と図書館の協力について報告する。

学びサポート企画部とは？

学びサポート企画部は、「大学生の日々の学習における躓きに対する学習支援を行うとともに、学習をするために必要な基本知識・技能を習得する場や機会を創ることで、大学生の学習スタイルの向上、改善を行う」という活動理念のもと、主に図書館で学習支援活動を行っている。2015年8月現在、メンバーは学生5名、教員1名、図書館職員4名となっている。

学習支援



Study Support Space (SSS)

① 概要説明

<目的>

教員・大学院生・学部学生が学習アドバイザーとして、図書館で大学生の学習に関する相談に対応する。

<実施場所> 徳島大学附属図書館 1Fピア・サポートルーム

<対応日時> 平日の14:00~19:00

<アドバイザー> 教職員12名、大学院生6名、学部学生5名
 (2015年8月現在)

<対応科目>

数学、物理、化学、生物、英語、レポートの書き方、他

② 業務内容

<学びサポート企画部メンバーの業務内容>

- ・アドバイザーの候補検討・依頼
- ・アドバイザーとの情報交換・運営課題検討
- ・時間割の作成
- ・広報戦略の検討・広報活動
- ・相談者・相談内容のデータ管理
- ・SSSの効果検証
- ・相談者アンケートの確認対応

<アドバイザーの業務内容>

- ・相談者の学習相談に対応
- ・相談内容を「相談者管理シート※」に記入

※相談者管理シートとは、アドバイザーが相談者の学部・学科・学年・相談内容などを記入するシートである。また、このシートを通じてアドバイザーと学びサポート企画部メンバーが、運営上の課題等の情報交換を行っている。

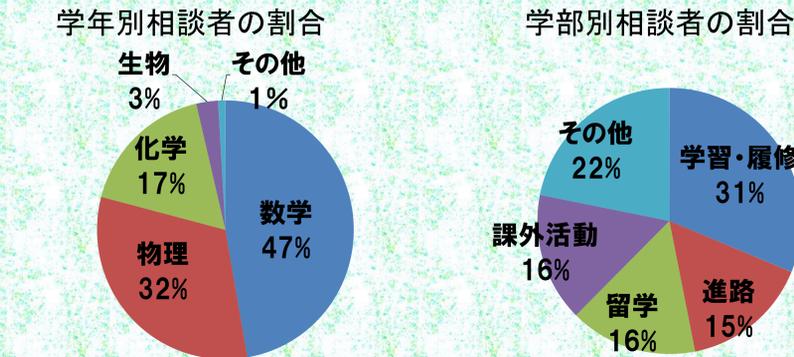
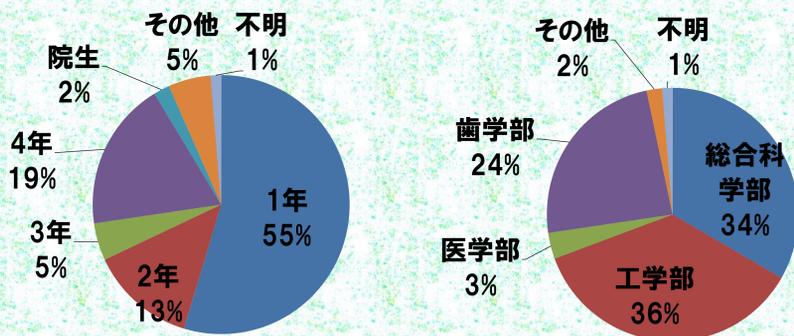


←SSSを実施している
 図書館1F
 「ピア・サポートルーム」

③ これまでの実績

年度	実施日数	前期相談者数	後期相談者数	累計相談者数
2013	153日	210人	142人	352人
2014	151日	180人	214人	394人
2015	75日	150人		150人

<2015年度前期の実績>



学習に関する相談内容 (N=110) 学習以外の相談内容 (N=32)
 ※150件の相談のうち、雑談が7件、内容不明が1件含まれている。

<相談者の傾向>

- ・相談者の半数以上は一年生であった。
- ・学習に関する相談内容のほとんどが理系科目であった。
- ・工学部、総合科学部、歯学部の相談者数が多かった。

<今後の課題>

- ・相談者数が減少しているため、広報戦略を検討する必要がある。
- ・ピア・サポートルームをより相談者が入りやすい空間にしていく必要がある。
- ・昨年に比べて、文系科目の相談者数が大幅に減少している。
- ・昨年に比べて、4月の相談者数が大幅に減少している。

イベント



1. 全力卒論発表会

●目的

4年生の卒業研究内容を学科学年を問わず共有できる場を設けることで、下級生に卒業研究への取り組み方を知ってもらい、卒業研究に関する関心を高める。

●企画概要

徳島大学の4年生が、自身の取り組んできた卒業研究について、その内容や研究の過程で苦労したこと、達成感を感じたことなどを1人当たり約30分間で発表し、参加者との質疑応答を行う。

●実施場所：徳島大学附属図書館 1Fラーニング・コモンズ

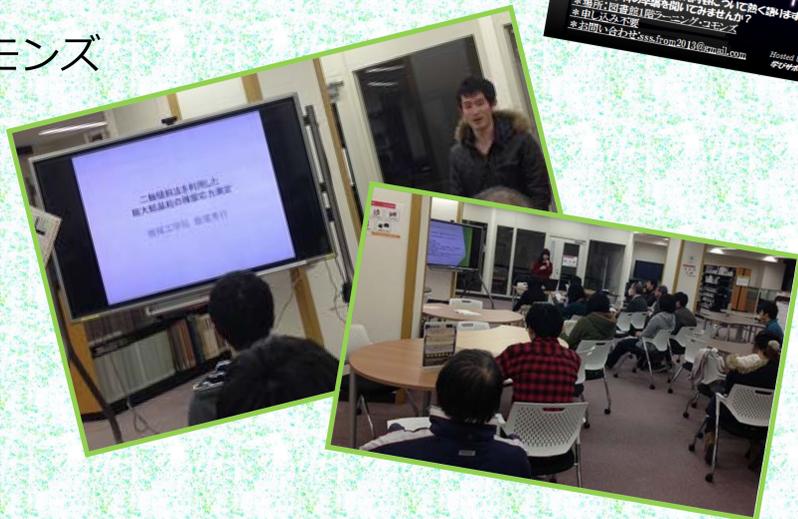
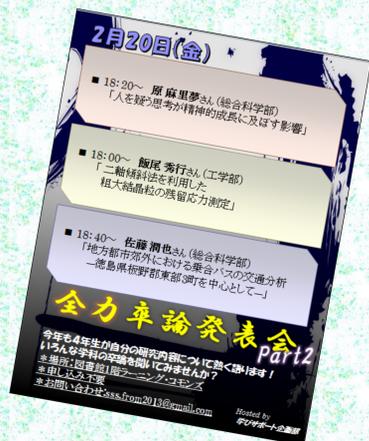
●開催日時：2015年2月20日（金）18:00～19:00

●発表者：4年生3名（総合科学部2名、工学部1名）

●参加人数：23名

●参加者の声(アンケートより)

- ・卒論に対する具体的なイメージがわいた。
- ・卒論について興味がわいた。
- ・他学科、他コースの人の話を聞いてよかった。



2. 先生のコバナシ～実は私こんなことをしているんです～

●目的

大学で行われている“研究”について、その内容、興味深いところ、先生の思いなどを知ることで、大学における学習や研究に対する動機づけに役立つ。

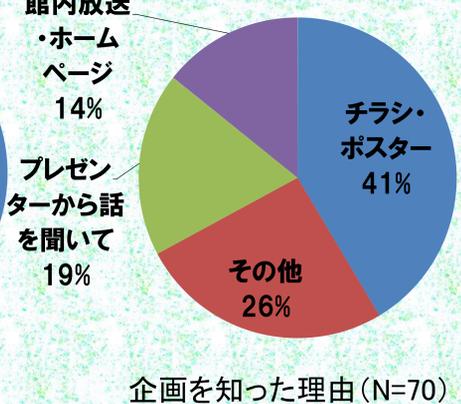
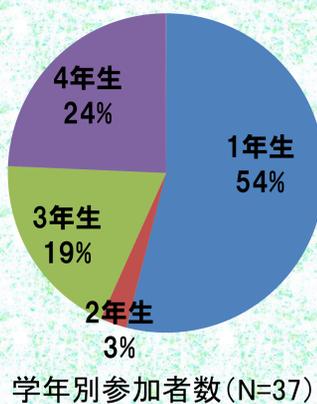
●企画概要

徳島大学の教員が日々行っている研究活動について、その研究内容、興味深い点、取り組む姿勢などを1人当たり約30分間で発表する。発表の仕方は指定しない（PPT発表、講演、座談会、フリートークなど）。主な対象者は徳島大学生であり、学生が研究に対して関心を持つきっかけをつくる。

●実施場所：徳島大学附属図書館 1Fラーニング・コモンズ

●これまでの開催概要・実績

開催回	開催日数	プレゼンターの人数	参加者数
第1回 (2014.6-7)	5日間	8人	61人
第2回 (2015.1)	4日間	4人	63人
第3回 (2015.6-7)	6日間	6人	102人



●参加者の声(アンケートより)

- ・普段聞くことのできない話をうかがえてよかった。
- ・先生が熱心に語ってくださり、思いが伝わってきて楽しかった。
- ・先生が普段どんな研究をしているのかわかって楽しかった。



学びサポート企画部の今後の展望

課題

- ◆ SSSの相談者数が減少している。(特に文系科目)
- ◆ 教員に比べて学生アドバイザーに対する相談者数が少ない。
- ◆ イベントの参加者が少ない。

解決策

- ◆ アンケートやアドバイザーからの意見を取り入れ、SSSをより相談しやすい環境にする。
- ◆ 初年次の学生のニーズに合うように、相談科目を再設定する
- ◆ 計画的かつ学内イベント等に合わせた効果的広報を行う。

今後の展望

先生のコバナシや、卒論発表会等のイベントを継続し、大学生の学習に対する興味・関心をそそるようなイベントを増やしたい。
また、学内で活発に活動を行っている学生が、他の学生に刺激を与えるような機会も設けたい。